

《蘇州日本人学校教育目標》

未来に向かい 明るく 元気で 心豊かな子どもの育成

平成29年10月31日

【発行者】

蘇州日本人学校
校長 中西太加夫

小学部6年 修学旅行…百聞は一見に如かず

10月11日から3日間、小学部6年生が北京への修学旅行へ行ってきました。中華人民共和国の首都北京は政治の中心であり、歴史と文化の奥深さを感じられる、6年生の児童にとっても関心の高い地であるといえます。

世界遺産である天壇公園、故宮、万里の長城ではスケールの大きさに感嘆の声をあげ、事前に調べ学習で得た知識と現地での詳しい説明を照らし合わせ、実際に見るのと聞くのではこんなに違うのかと、本物に触れる感動が詰まった3日間でした。疑問に感じたことを積極的に質問したり、友達と話し合ったりするなど積極的な態度、主体的な学習姿勢はとても立派でした。自分のことだけを考えるのではなく、困っている友達に優しい言葉かけをする場面も多く見られ、6年生のあたたかい友だち関係を随所に感じました。係を中心に班行動、集団行動する様子から、小学部最高学年としてのひとりひとりの自覚、学年としてのまとまりを感じ、頼もしく思えました。

日本大使館では、広報文化センターをはじめ大使館内、大使公邸を見学することができました。横井大使の多忙な公務の合間を縫って、児童が直接お話をうかがう場所と時間を設定していただき、大使館の仕事から大使の生き方に至るまで、6年生にとって本当にわかりやすく、惹きつけられる時間でした。児童からの質問にも気軽にユーモアたっぷりに答えていただき、6年生にとっても一生忘れられない思い出になったと思います。

修学旅行での子どもたちの貴重な体験が、さらなる現地理解につながり、日中友好の架け橋へのきっかけになってくれればと思いました。



蘇州に響いた邦楽の調べ

10月16日、子どもたちが楽しみにしていた邦楽ワークショップと演奏会を開催しました。音楽の教科書に載っている和楽器の数々。楽器の特徴や楽曲について説明は載っているものの、音楽CDで鑑賞して、その音色に想いを馳せることが多いものです。この日、遠路はるばる日本から「こうべ邦楽ワークショップ」の皆様に来校いただきました。海外に住む子どもたちに和楽器のすばらしさを伝えたいと、熱心に活動을続けている方々です。『となりのトトロ』や『千本桜』など、子どもたちの親しみのある楽曲を和楽器の見事な合奏で披露してくださいました。

演奏会后、中学部3年生を対象に和楽器体験のワークショップが行われました。箏、尺八、三絃の音を出すコツをつかむために、プロの先生方の演奏姿勢を真似たり、楽器の演奏方法を尋ねたりするなど、真剣な表情で取り組んでいました。代表の名村茂代先生は、「将来、海外の人々に日本について紹介するとき、日本の和楽器の素敵な音色や、『さくらさくら』のように美しい旋律をもつ音楽も、ぜひ紹介できるようになってほしい。」と中学部3年生にお話してくださいました。

本物に触れ、感じることは何物にも代え難い体験学習です。子どもたちの次への学びの意欲につながります。学校はこれからも、蘇州ならではの教育、本場・本物の学びをできる限り追求していきたいと思ひます。

